

生成AI との向き合い方

近年、「生成AI」という技術が普及し始めています。質問をするとすぐに答えてくれる便利なものなので使用している人も多いと思います。しかし、使い方を間違えると勉強の力が身につかなかったり、思わぬトラブルに巻き込まれることもあります。正しい使用方法を身につけるために生成AIの特徴や間違った使い方について紹介します。

生成AIの特徴

インターネット上にある数多くのデータから学習し、指示通りに新しい文章や画像を作成することができるのが人工知能です。これまでのAIは「学習したデータから最適なものを探し出す性質」を持っていましたが、生成AIは「0から1を生み出す性質」があります。

しかし、生成AIは人と同じように考えて答えているわけではなく、たくさんの文章から次に来そうな言葉を選んで文章を作っています。そのため、読んでみると正しそうな文章でも実際は事実と異なる内容があります。



生成AIの間違った使い方の例

例① 課題を丸投げしてしまったAさん

Aさんは学校のレポートを「全部作って」と生成AIに頼んだ。出てきた文章をそのまま提出したが、内容に誤りがあり、先生に指摘されてしまった。自分で考えなかったため、間違いに気づけなかった。
※生成された文章が著作権などの権利を侵害している可能性もあるため、注意が必要です。



例② Bさんのうっかり個人情報

Bさんは生成AIに相談するつもりで、自分や友達の名前、学校名まで入力してしまった。
※入力した情報はネット上に残り、他の人が生成AIを利用した際に、その記録データが利用され、情報が洩れる可能性があります。



例③ Cさんのいたずら画像

Cさんは、好きな芸能人の顔に友達の顔を合成した画像を生成AIで作った。それをSNSに投稿したところ、友達が深く傷つき、いじめと受け取られて大きなトラブルに発展してしまった。
※冗談のつもりでも、相手が傷つけばそれはいじめと見なされます。また、他人の顔を勝手に使用したことは、プライバシーを侵害しています。



生成AIを利用するにあたって

生成AIは正しく使うことができれば便利な道具になりますが、生成された情報に間違った情報が含まれていることや情報漏洩、権利侵害などの可能性、様々な危険性や問題点があります。新しい技術を正しく使うためにも生成AIの特徴やリスク等を理解し、生成AIと上手に向き合うことが大切です。

